

消防団基礎データ

R04.04.22

大阪府危機管理室消防保安課

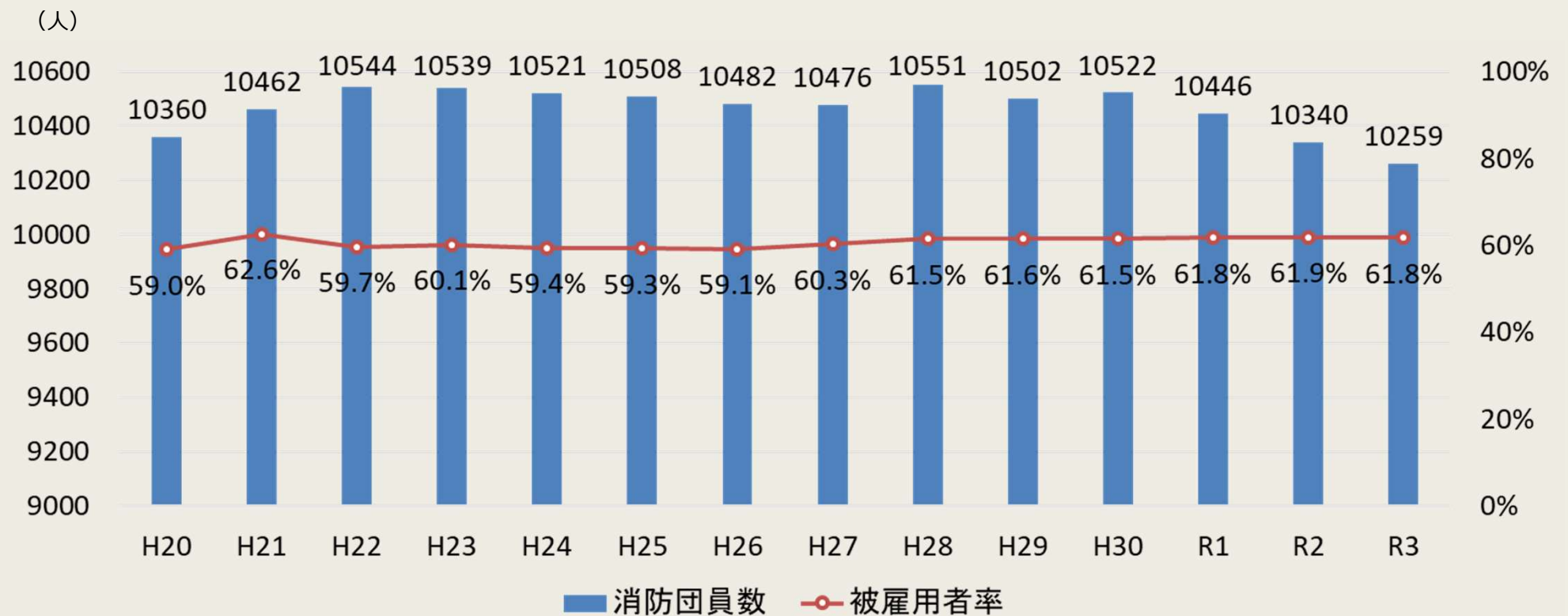
目次

1. 団員数及び非雇用者数
2. 消防団員の年齢構成比
3. 女性消防団員
4. 学生消防団員
5. 機能別消防団員
6. 過去のアンケート結果
7. まとめ

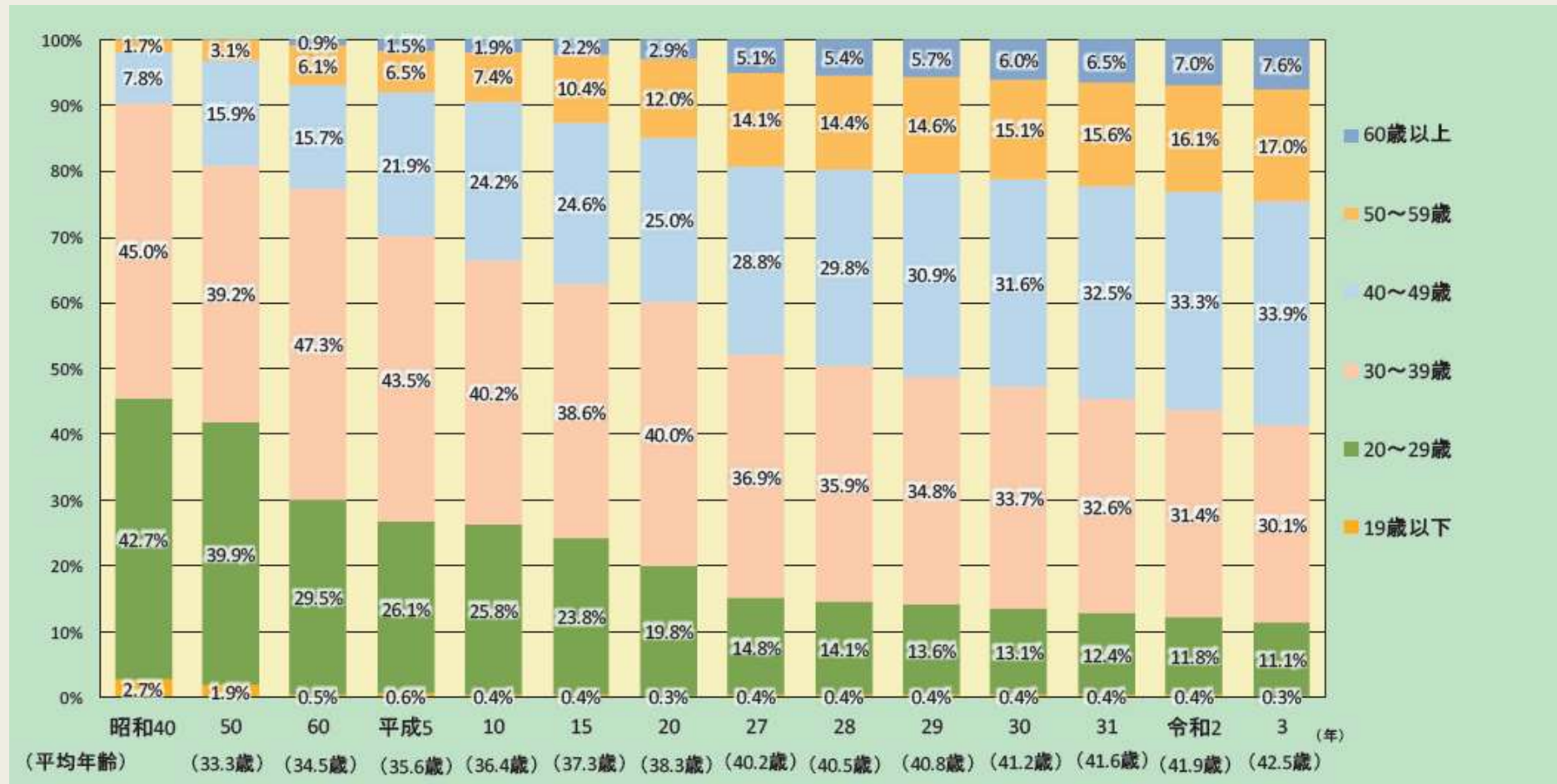
1. 団員数及び被雇用者数（全国）



1. 団員数及び被雇用者数（大阪）



2. 消防団員の年齢構成比（全国）



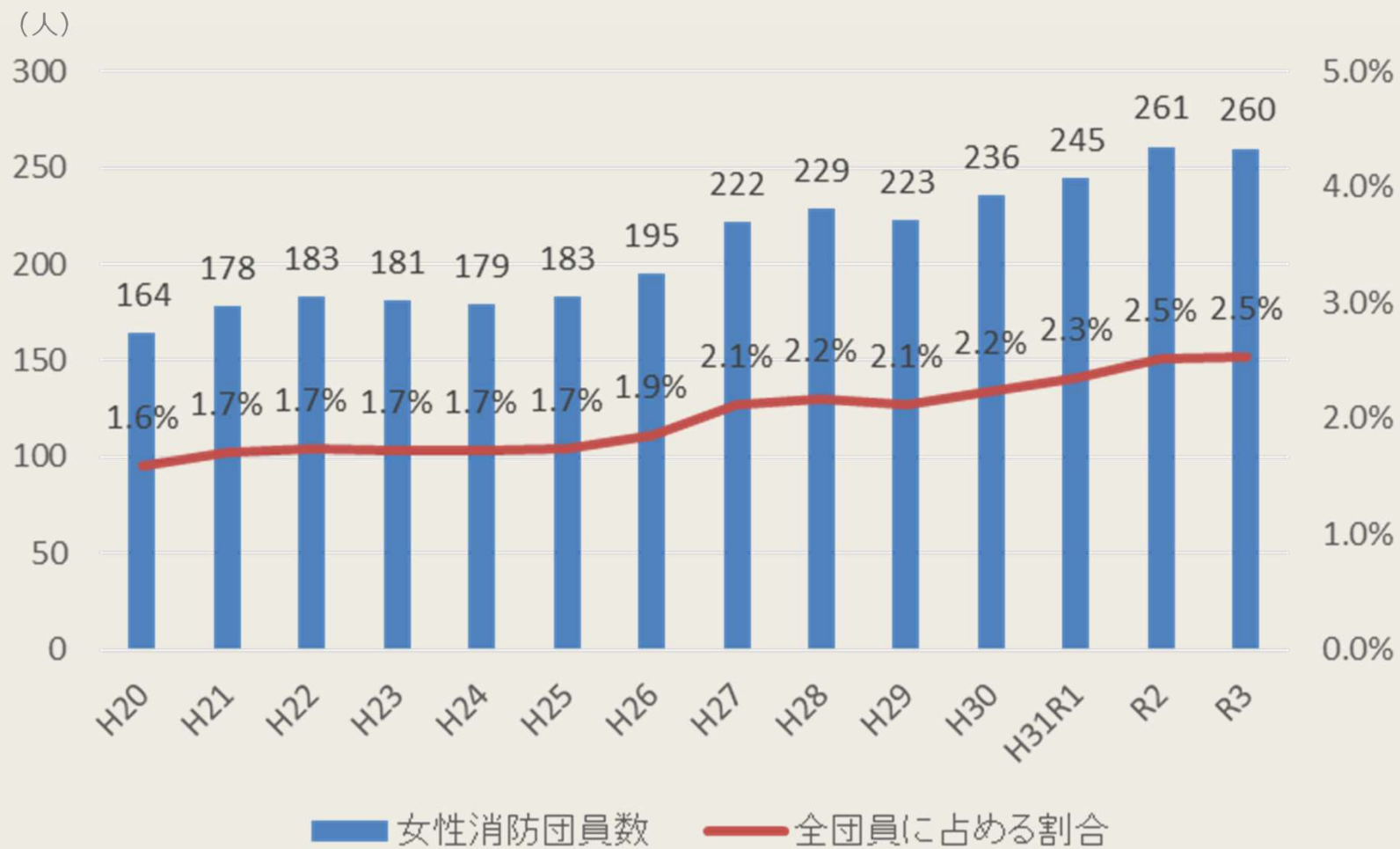
2.消防団員の年齢構成比（大阪）



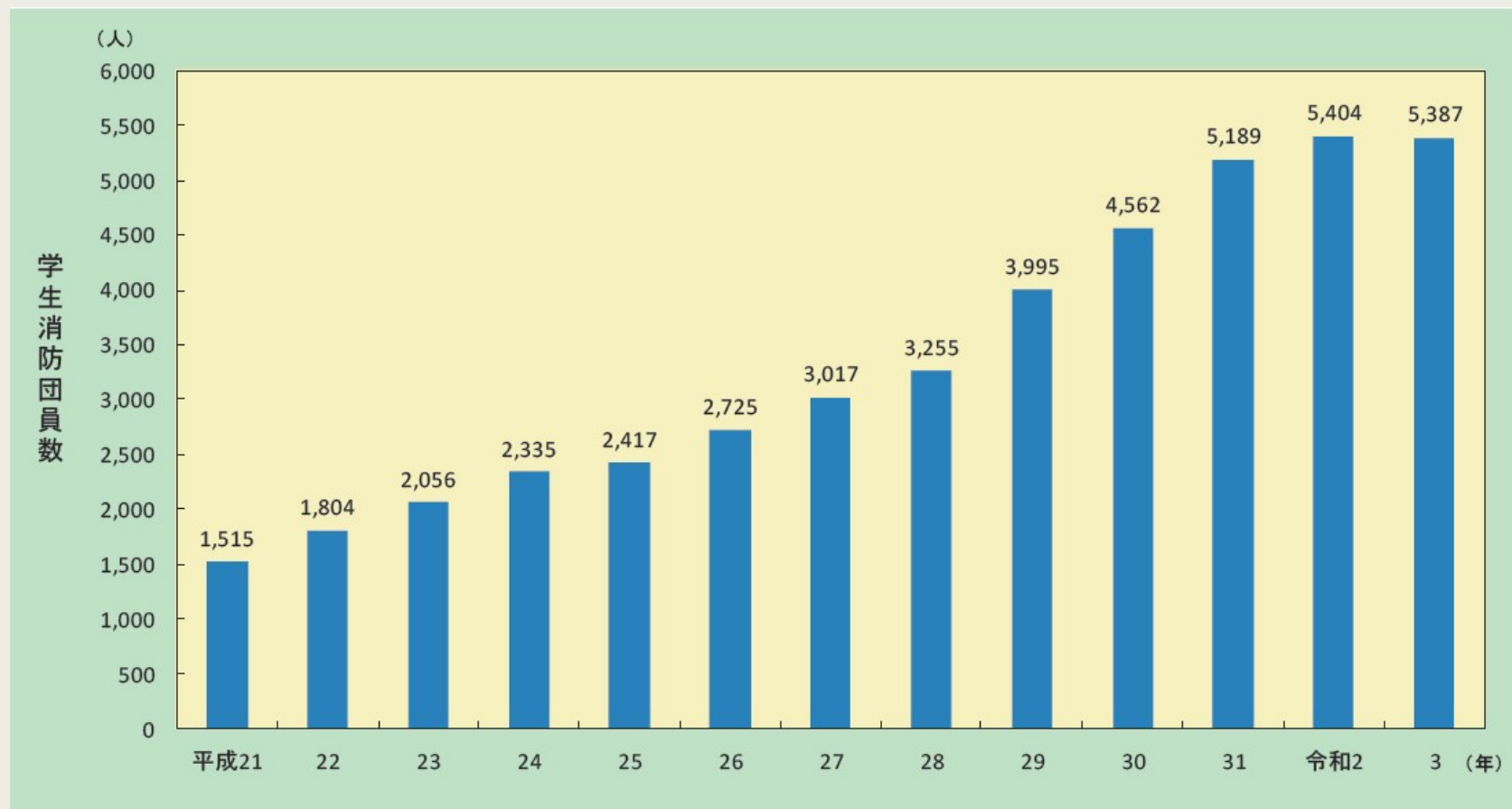
3.女性消防団員（全国）



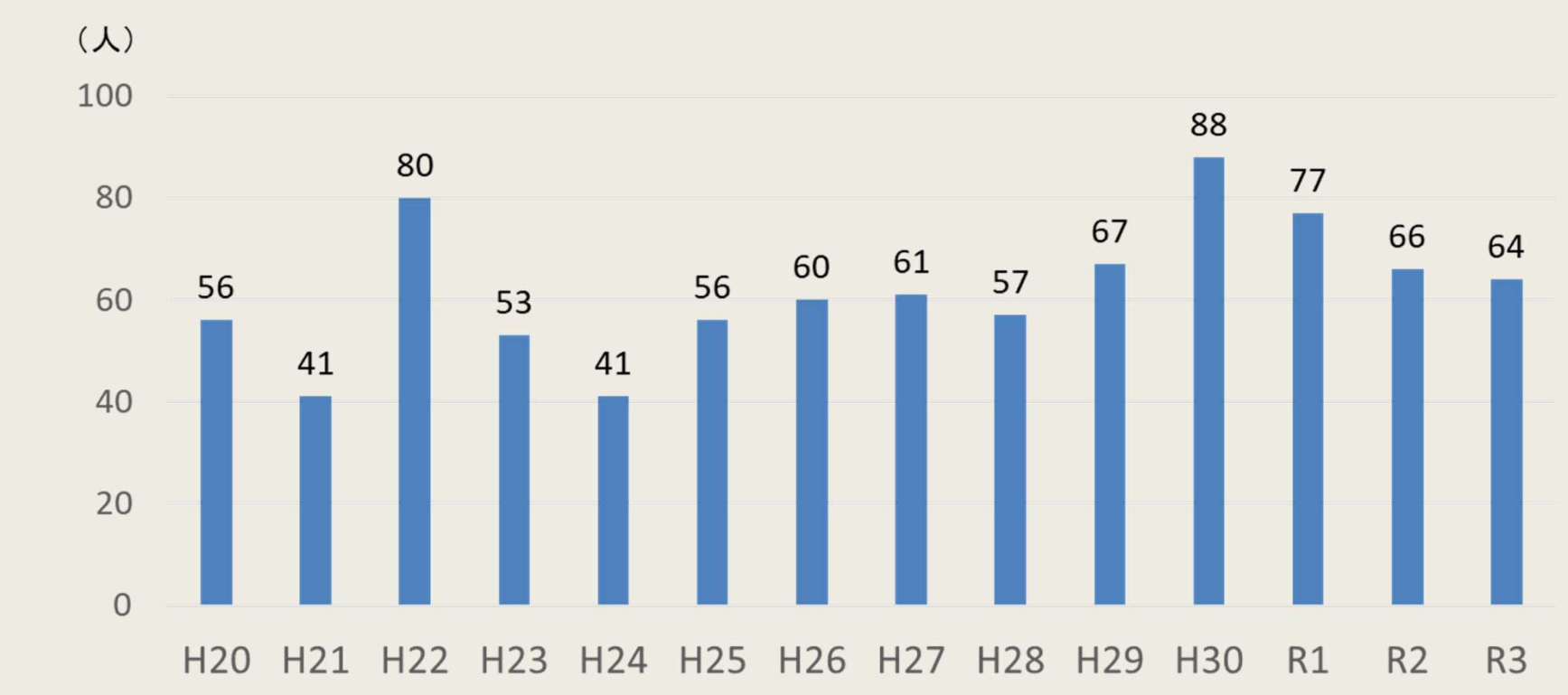
3.女性消防団員（大阪）



4. 学生消防団員（全国）



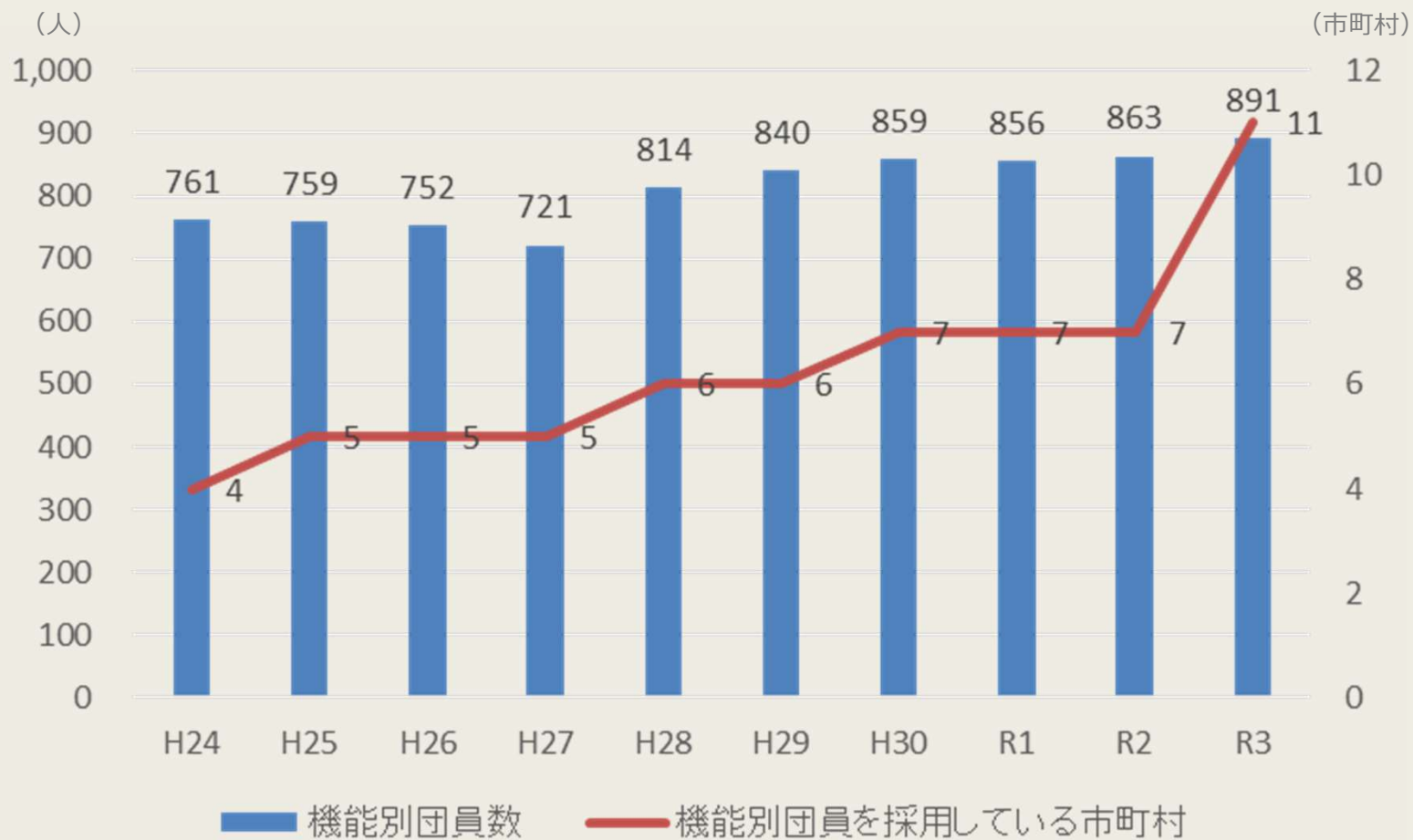
4.学生消防団員（大阪）



5.機能別消防団員（全国）



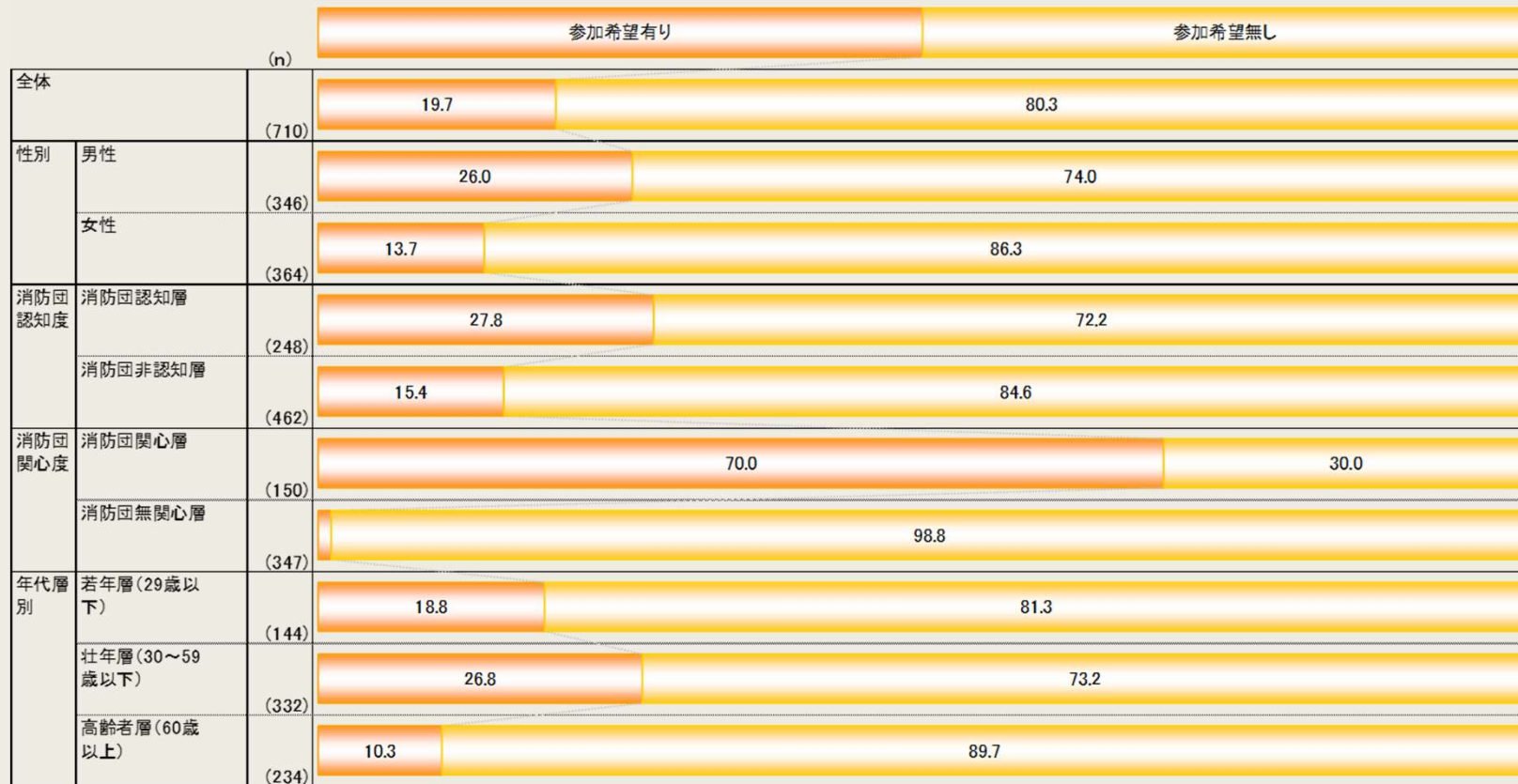
5.機能別消防団員（大阪）



6.過去のアンケート結果 消防団の認知度（H27.7実施）

		(n)	消防団認知層	消防団非認知層
全体		(1000)	36.3	63.7
職業別	自営業	(85)	40.0	60.0
	農業	(2)	100.0	
	サラリーマン	(337)	36.8	63.2
	公務員	(28)	57.1	42.9
	専業主婦(夫)	(236)	36.0	64.0
	学生	(20)	35.0	65.0
	無職	(147)	34.0	66.0
	その他	(145)	32.4	67.6
性別	男性	(487)	38.6	61.4
	女性	(513)	34.1	65.9
年代層別	若年層(29歳以下)	(194)	35.6	64.4
	壮年層(30~59歳以下)	(496)	36.1	63.9
	高齢者層(60歳以上)	(310)	37.1	62.9

6.過去のアンケート結果 消防団活動への参加意向（H27.7実施）



6.過去のアンケート結果（R3.11実施）

現在、貴管内の消防団に関連して特に課題となっていることは何ですか。 （複数回答可）	全体81		消防団長・消防長 等54		消防団事務担当者 27	
1. 新入団員の確保が困難になっている	60	74%	39	75%	21	78%
2. 若手消防団員の確保が困難	59	73%	40	77%	19	70%
3. 団員の高齢化が進み、組織の硬直化が進んでいる	37	46%	24	46%	13	48%
4. 団活動に参加できる団員が減少し、活動が不活発になっている	16	20%	11	21%	5	19%
5. 全ての活動に参加できる団員の確保が困難になっている	26	32%	15	29%	11	41%
6. 消防団活動の負担が大きく、退団してしまう団員が多い → Q 1 - 1 へ	6	7%	3	6%	3	11%
7. 消防団に係る経費（報酬や資機材に要する経費）が不足している	18	22%	11	21%	7	26%
8. 消防団に対する訓練が不十分である	10	12%	3	6%	7	26%
9. 消防団員のサラリーマン化に伴う、団活動への企業の理解不足 → Q 1 - 2	18	22%	15	29%	3	11%
10. 消防団に対する広報（P R）不足や社会的理解不足	15	19%	11	21%	4	15%
11. 消防団活動報告書の集約・事務負担	7	9%	0	0%	7	26%
12. 特になし	5	6%	3	6%	2	7%
13. その他	0	0%	0	0%	0	0%

7.まとめ

- ここ10年の団員数の推移は全国▲7.9%に対し府▲2.5%とゆるやかだが...
 - 被雇用者の割合が低い（全国74%に対し府61%）
 - 団員の高齢化が進んでいる（全国平均42.5歳に対し府47.2歳）
 - 女性団員の割合が低い（全国3.4%に対し府2.5%）
 - 学生団員の数が少ない（神奈川、愛知の4～500人に対し府64人）
 - 機能別団員の割合が高い（全国3.6%に対し府8.7%）
- 過去に実施したアンケートでは...
 - 大阪府民の消防団の認知度は約4割
 - 消防団関係者の7割超が消防団員（特に若手）の確保を課題と認識